

きっかけは？

小さい頃から船が好き
でした。高校も造船
科で勉強しました。
もちろん船の設計にも
興味がありました。が、
「船に乗りたい」という
気持ちが強くなって、
船の上での仕事を選び
ました。

どんな仕事ですか？

浚渫船という船に乗って、海底
を整備する工事をしています。
船での作業は安全第一です。
大きなクレーンもありますし、
下手をするとワイヤーが落ちて
くる危険性もあります。
一度船に乗り込むと、1カ月か
ら3カ月の間、船で暮らすこと
になります。

船での生活は？

みんなで一緒に朝食を食べ、ラジオ体操を
して、ミーティング。作業が終わった後は
片付けをしてみんなで夕食。夜は自由時間。
エアコンや洗面所付きの個室で過ごしたり、
多目的室でワイワイしたりしています。



さぎょうせんぎのうし
作業船技能士

うちだ ゆうじ
内田 悠治 さん
しものせき しゅうしん
下関市出身

仕事図鑑



このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介して
います。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

海の道をつくる

船が通るためには、ある程
度の水深が必要。水深が
足りないといと、船の底が海底に
ぶつかって大きな事故になる
からです。海底を掘り海の道
をつくることで、船の安全が
守られているのです。

まず、スパッドと呼ばれる
大きな杭を海底に刺し、船体
を固定。そして、クレーンを
操縦して、グラブバケットで
海底を掘り、土砂を土運船に
移します。1回の動作にかか
る時間は約2分半。1分1秒
を無駄にせず、この作業を繰
り返していきます。

「やりがい」と「楽しみ」

「船の上での仕事は、きつい
ですし緊張もします。でも、
クレーンの操縦や操船など、
一つ技術を身に付けるとどん
どん楽しくなってきましたよ」
と、内田さんは話します。

そして、この仕事にはもう
一つの楽しみが。

「船に乗るといろんな場所
に行けるので、現場での休日
は楽しいです。いろんな街を
歩けることも、この仕事の魅
力かもしれません」



グラブを
操作する
運転室。



海底を掘る
グラブバケット。



船の位置を決め、船内に
指示を出すブリッジが
内田船長のポジション。